



タラノメの新品種「阿波たろう」

はじめに

タラノメは、比較的簡単に栽培でき軽量であるため、高齢者にも適しています。また、生産物も高単価で販売できることから、中山間地域の冬期の有望な作物であり、今後も面積拡大が期待されています。しかし、現在栽培されている品種は、ふかし芽がやや小さい等の欠点があるため、農業研究所では、ふかし芽が大きく、品質に優れるタラノメの新品種の育成に取り組んでいます。

現在までに育成した中から、有望な個体を「阿波たろう(タラノメ徳島1号)」として、平成17年12月品種登録出願したので、この出願品種の特性等を紹介します。

「阿波たろう」の特性

株の生育は、旺盛で径が太く、刺も極少ない。また、定植後の株の揃いが良いため、定植1年目からふかし収量が多い(表1)。

ふかし芽は、長く太いため重量は重く、現在の品種と比較して、多収である。

新芽の毛茸は、少ないため、ふかし芽が鮮やかな緑色であり、品質に優れる(図1)。

本品種は現在の品種より、花芽が着くのが1カ月程度遅いため、株が古くなっても、ふかしのための節数を確保しやすい。

病害抵抗性は、そうか病抵抗性は強で、立枯疫病抵抗性は、やや弱である。

導入の注意点

栽植株数を多くすると芽が小さくなるため、栽植株数は、1000株/10aとしてください。

落葉は遅いですが、11月になると強制的に摘葉して、ふかし栽培をすることができます。

ふかし期間は、現在の品種より2~3日長くなります。

なお、県内農家への種苗の供給は、早くて平成19年春以降となる見込みです。



図1「阿波たろう」のふかし芽(左)と
駒みどり(徳島系)(同右)

表1 ふかし収量

| 品種名 | 一芽重(g) | 収穫芽数/株 | 収量(kg)/a | 原木栽植密度 |
|-----------|--------|--------|----------|--------------|
| タラノメ徳島1号 | 6.0 | 19.4 | 11.6 | 畝幅200×株間50cm |
| | 5.3 | 20.4 | 18.0 | 畝幅150×株間40cm |
| 駒みどり(徳島系) | 5.2 | 19.3 | 10.0 | 畝幅200×株間50cm |
| | 4.0 | 20.6 | 13.7 | 畝幅150×株間40cm |

注)調査株数;1年生5株



図2「阿波たろう」出荷荷姿

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター

農業研究所

中山間担当

TEL (0883) 72-0239

FAX (0883) 72-6868

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>